

# ちよこし 知りくわな

取材で分かった意外と知らない「ツウな情報」を、お伝えします

## 町工場から切り開いた未来

### 〇電源不要の街路灯!?

市内5カ所に、電源のいらぬ街路灯「グリーンパワーステーション」が設置されています。これは、NTN(株)が創業100周年を迎えるにあたり、平成29年8月に、市へ寄贈していただきました。



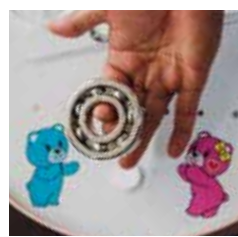
NTN(株)が、自然エネルギーを活用した独立電源型で、電気設備工事代や電気代が不要。また、技術者を駆使した静音設計で、市街地への設置もできます。さらに、風力と太陽光による高効率発電で安定した蓄電量を確保します。街路灯としての活躍のみならず、災害時には、携帯電話の充電をすることも可能です。



イラスト 市民編集員 古橋 公子

### 〇NTN(株)製ベアリング、驚きの技術!

ハンドスピナーに、ボールベアリングが使われているというをご存じですか。ハンドスピナーとは、平成28年ごろに米国で大流行したおもちゃで、日本でも一大ブームを巻き起こしました。NTN(株)製のボールベアリングを使用した商品も販売されていて、その精度からよりなめらかに回り続けるのだそうです。細やかな技術に、驚かされますね。



体験キットで制作したベアリングも、とてもめらかに回っていました

## 市長がふれる!

# 本物力

No.03  
町工場から切り開いた未来



今月の特集は「町工場から切り開いた未来」。

今回はNTN株式会社産業機械技術開発センター(以下、開発センター)へ訪問し、副本部長の片桐力(ちから)さん(以下、片桐さん)に新たなベアリングづくりについてお話を伺いました。

桑名でのベアリング生産の始まりは大変ドラマチックです。大正11年、NTN株式会社初代社長で、当時の巴(とよま)商会を営んでいた丹羽昇(のぼる)さんが、沈没船に積み込まれていた海外製の高級ベアリングを買い取り、桑名市内堀にあった西園鉄工所



片桐さんからお話を伺いました

に、これをモデルにした国産ベアリングの製造を依頼したところから始まります。いち早く国産ベアリングの製造に取り組んだチャレンジ精神は、現在も受け継がれています。

開発センターには、約200人の技術者の皆さんが働いています。ベアリングの基本的な構造は昔と変わりません。しかし、素材やなめらかさ、耐久性などのニーズにあわせた製品の製作したり、新たなベアリングの研究開発を日々行ったりしています。

片桐さんに「どんなところが一番難しいですか」と尋ねたところ「どんな素材でも丸くするのが一番難しいんです」との答えが返ってきました。なんてシンプル!丸くするために最先端を追求する技術者魂に感動しました。(失礼ながら、

子どもが一心不乱に泥団子を作る姿が頭に浮かびました)

開発センターには、実にさまざまなベアリングが展示されています。大きさや形状を見ても、内径5mmの小さなものから、外径2.5mといったとても大きなもの、新幹線などの鉄道車両や産業ロボットに使用されるもの、パソコンのハードディスク用など、多種多様です。今では航空機のジェットエンジンやロケット、風力発電にも使用されており、新しい産業からも注目が集まっているそうです。

最先端の技術で、世界中をなめらかにし、新産業から注目を集めるNTN株式会社。100年以上前に桑名で誕生した町工場が、世界に誇れるグローバルカンパニーに成長した姿に、とても誇らしい気持ちになります。